

普天間飛行場返還問題

◆SACO合意から25年目…

進まぬ普天間飛行場返還問題とこれまでの経緯

| | | |
|-------|-----|--|
| 1996年 | 12月 | 「SACO最終報告」で「今後5年乃至7年以内に、十分な代替施設が完成し運用可能になった後、普天間飛行場を返還する」と合意 |
| 2004年 | 8月 | 沖縄国際大学へ米軍ヘリが墜落 |
| 2006年 | 5月 | 在日米軍再編協議最終報告（日米ロードマップ）において、普天間飛行場代替施設の建設は2014年までの完成を目標とすることを合意 |
| 2011年 | 6月 | 「2+2」において、日米ロードマップで合意された、普天間飛行場移設・移転の2014年の目標を見直し、出来る限り早く完了することを確認 |
| 2012年 | 10月 | MV-22オスプレイの配備が開始（2013年9月配備完了） |
| 2013年 | 4月 | 日米両政府による統合計画において、普天間飛行場の「2022年度またはその後」の返還時期を公表 |
| 2014年 | 2月 | 沖縄県知事、宜野湾市長連名で、普天間飛行場の5年以内の運用停止、早期返還などを政府に要請 |
| | 2月 | 第1回普天間飛行場負担軽減推進会議が開催 |
| | 3月 | 第1回普天間飛行場負担軽減推進会議作業部会が開催 |
| | 8月 | 普天間飛行場所属のKC-130空中給油機全15機の岩国飛行場への移駐完了 |
| 2017年 | 7月 | 普天間飛行場東側の土地（約4ha）の返還 |
| | 12月 | 普天間第二小学校へ米軍ヘリ窓落下 |
| 2019年 | 6月 | 浦添市内中学校にブレードテープが落下 |
| | 8月 | 沖縄県東海岸沖で米軍ヘリ窓が落下 |
| 2020年 | 4月 | PFOSを含む泡消火剤漏出事故が発生 |
| | 12月 | 普天間飛行場の一部土地（佐真下地区：約990平方メートル）の返還 |



◆普天間飛行場に関する日米合意とその実態

平成8年3月 ◆航空機騒音規制措置に関する日米合意

普天間飛行場における航空機騒音規制措置（抜粋）

- 3.a 進入及び出発経路を含む飛行場の場周経路は、できる限り学校、病院を含む人口稠密地域上空を避けるように設定する。
- 3.g 22:00～06:00の間の飛行及び地上での活動は、米国の運用上の所要のために必要と考えられるものに制限される。夜間訓練飛行は在日米軍に与えられた任務を達成し、又は飛行要員の練度を維持するために必要な最小限に制限される。部隊司令官は、できる限り早く夜間の飛行を終了させるよう最大限努力を払う。

平成19年8月

- ◆ 場周経路の再検討及び更なる安全対策についての検討に関する報告書の合意
- ◆ 普天間飛行場の除去に向けた取り組みを発表



普天間飛行場に係る場周経路の再検討



普天間飛行場に係る離発着経路

平成27年9月 ◆ 日米地位協定の環境補足協定の締結

日米両政府は、日米地位協定の発効後初めてとなる環境補足協定に合意し署名しました。これにより、これまで規定のなかった環境事故発生時の日本側の調査と、返還の約7ヶ月前から現地調査を行うことが可能となりました。また、嘉手納以南の返還における立入りについては、日米間で別途合意すれば7ヶ月より前に立入りが可能となりました。

しかしながら、立入り調査については米軍の裁量に委ねられているところもあり、懸念が残る部分もあることから、本市としましては、適切な運用がなされていくよう求めています。

<環境補足協定に基づく立入り事例>

令和2年4月に発生した普天間飛行場からのPFOSを含む泡消火剤漏出事故を受け、国、県と共に水質調査等に係る立入りを実施した。

◆ 有機フッ素化合物について

PFOSやPFOAは有機フッ素化合物の一種であり、人体への影響を踏まえ、製造・使用について国際的に規制の対象となっていることに加え、米国では飲料水の健康勧告値(70ng/L)が設定されています。

沖縄県が令和2年9月に実施した、市内19地点における水質調査の結果、普天間飛行場周辺の湧水や地下水11地点において、環境省が定めたPFOS及びPFOAの暫定目標値(50ng/L)を超過した値が検出されたことから、市としては、湧水等を飲用しないよう注意喚起しております。

普天間飛行場周辺 令和2年度有機フッ素化合物夏季調査結果(一部抜粋) (単位:ng/L)

| 市内検出地点 | PFOS | PFOA | PFOS・PFOA 合計値 | PFH _x S | 6:2FTS |
|-----------|------|------|------------------|--------------------|--------|
| チュンナガー | 1500 | 130 | 1600 | 500 | 160 |
| メンダカリヒーガー | 640 | 28 | 670 | 87 | 260 |
| マジキナガー | 1900 | 94 | 2000 | 280 | 150 |
| アラナキガー | 1000 | 190 | 1200 | 260 | 390 |
| シチャヌカー | 360 | 100 | 470 | 91 | 1300 |



場所: メンダカリヒーガー

普天間飛行場では、米国防総省の方針が2016年に実施されて以降、訓練目的でPFOSが含まれた泡消火剤は使用しておらず、普天間飛行場内に設置されているPFOS等含む泡消火剤については、順次回収・交換を行っている段階であるという報告を受けています。